

## 当科における頸部膿瘍36例の検討

小 柏 靖 直    中 村 健 大    松 田 雄 大    永 藤        裕  
堤        知 子    壺 坂 俊 仁    長 井 恵 一    金 谷 毅 夫  
          山 内 宏 一    田 鍋 志 保    守 田 雅 弘  
                  武 井 泰 彦    甲 能 直 幸

杏林大学耳鼻咽喉科

当施設は広範な西東京の救急医療の一翼を担っており、救急疾患で入院加療となる、患者が比較的多くみられる。中でも頸部膿瘍は重篤な病態を呈しやすく、抗生物質が発達した現代においても縦隔膿瘍、敗血症などの併発により時には致死的な状態となりうる疾患である。

今回我々は、2000年1月から2007年5月までの過去7年5ヶ月の間に当科で入院加療した頸部膿瘍患者36例（扁桃周囲膿瘍単独症例は除外）について、年齢、性別、既往歴、喫煙歴、起炎菌、随伴疾患の有無、外切開などの外科治療併用の有無、転帰などの項目について検討を行ったので文献的考察を加え報告する。